

# シェアサイクルと公共交通の複合経路検索サービス導入とその効果

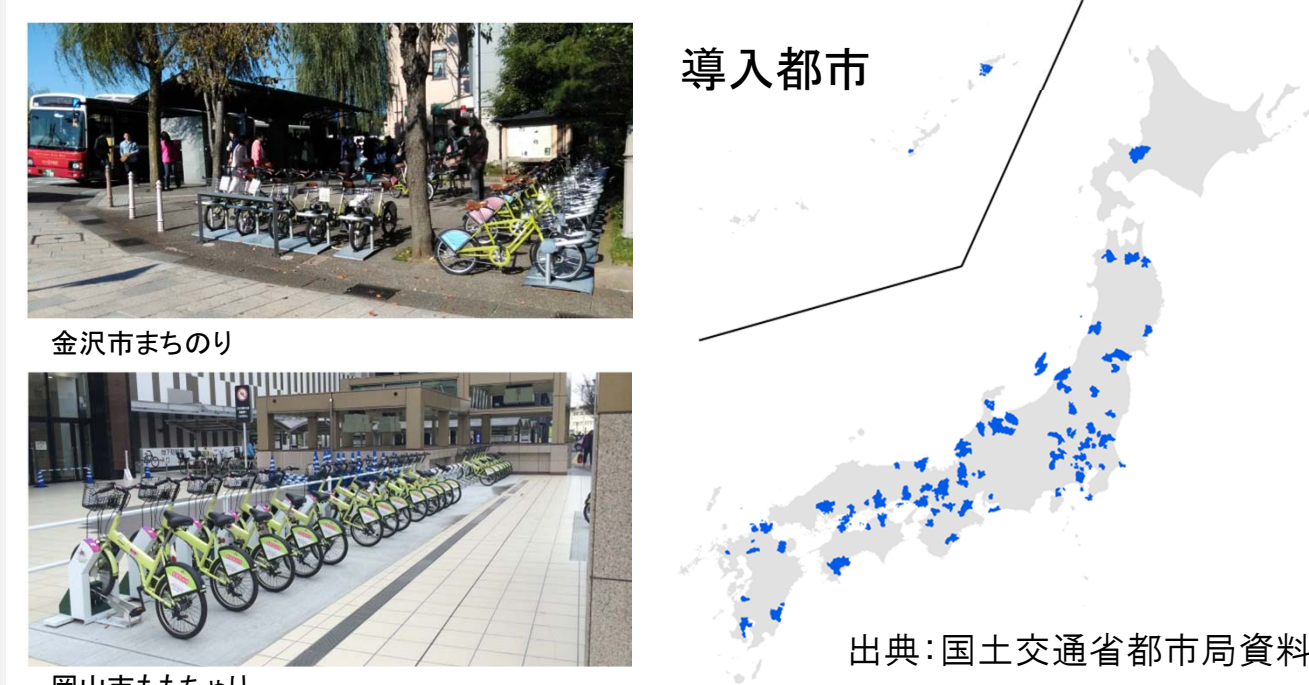
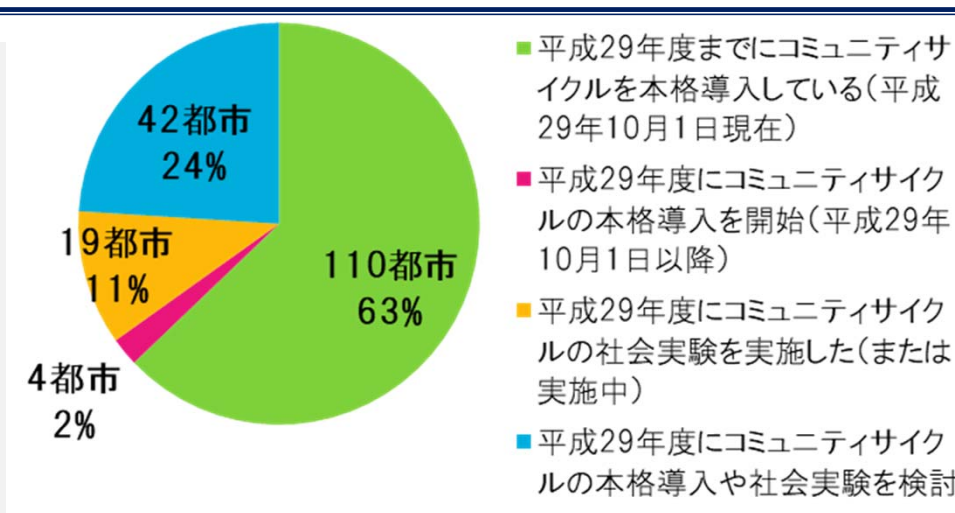


菊池宗史 (株)ヴァル研究所 | 高田香穂理 (株)ヴァル研究所 | 福井滯菜 (株)ヴァル研究所 | 若井なつみ (株)ヴァル研究所 | 熊谷美香子 (認定NPO法人 ポロクル) | 三上貴史 (認定NPO法人 ポロクル) | 小美野 智紀 (株ドココン東京支店) | 遠坂拓也 (株ドココン東京支店)

## I. 背景と目的

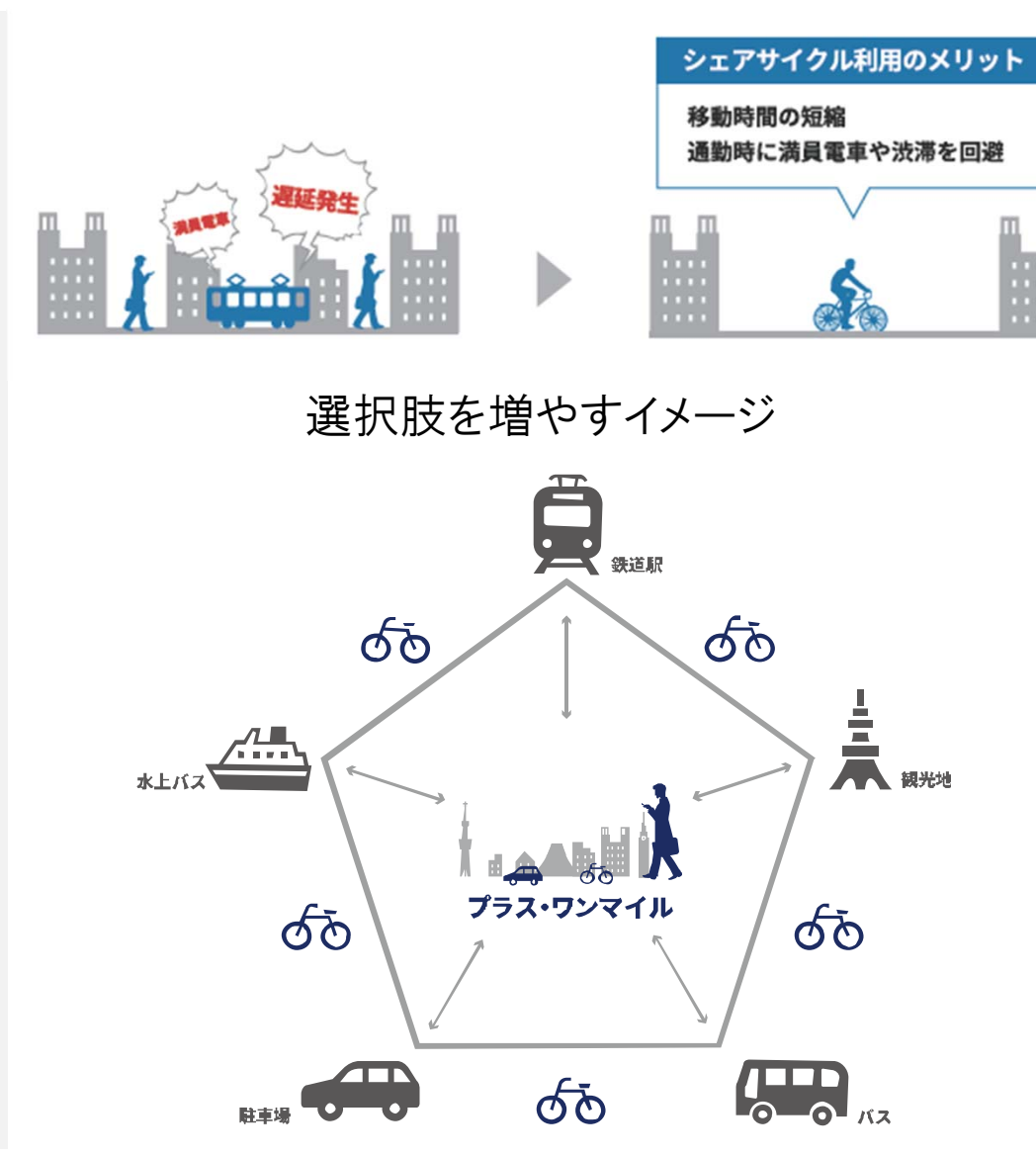
### ■背景

- 都市内の活性化やモビリティの向上を図るとともに公共交通のラストワンマイルとして機能するシェアサイクルは世界各地で導入が進む。
- 国内でもすでに100都市以上で導入が進められているが、公共交通等との有機的な連携がされないなどの課題がある。
- 経路探索では鉄道・バスを組み合わせた検索は可能であるが、近年急速に増えている新たな交通手段である「シェアサイクル」等への対応が進んでいない。



### ■目的

- シェアサイクルと公共交通との有機的な連携を図りラストワンマイルとしての機能強化・利用者の利便性向上を図る。
- 公共性を有するモビリティとして、公共交通機関と連携し多様な交通手段の選択肢を提供するとともに、利用の促進を図る。
- 新しい移動手段を組み込み、マップや経路図など利便性の高いツールを組み込むことで、安全で便利な交通利用環境を提案。



## II. プロジェクトの内容

- 既存の公共交通乗換・経路探索サービスである「駅すばあと」をベースに、札幌市で2011年から実施しているシェアサイクル「ポロクル」の情報(自転車台数・位置)を組み込、**シェアサイクルを含む複合経路検索が可能な専用サービス「mixway」を開設**。(https://mixway.ekispert.net/)
- 人々の移動におけるルートの選択肢としてシェアサイクルを公共交通と組み合わせてルートを表示。
- JR・地下鉄・バス・市電とポロクルを組み合わせた経路探索を可能**とした。

### ■提供する情報

- 電車・バスとポロクルを組合せた経路の検索結果と料金・時間・距離・ルート(地図表示)など。
- ポートの状況(満車・空車)(=リアルタイムポートマップ)なども表示。



### ■複合経路検索 (利用イメージ)



### Mixwayの機能

#### ①リアルタイムポートマップ

満空情報は1分おきに更新。全ラックに対する自転車台数で状況を示す

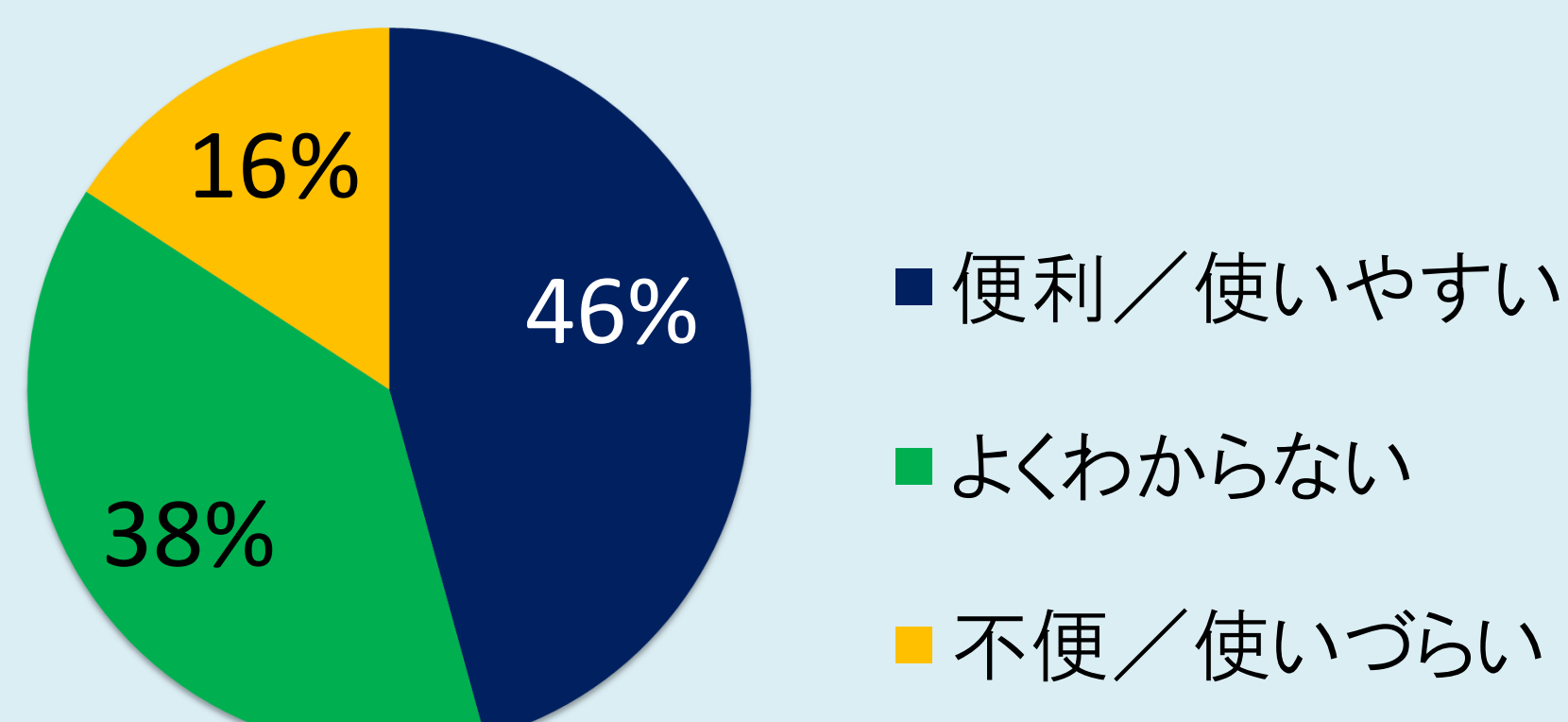
#### ②複合経路検索

- ミックス経路(ポロクル+公共交通)
  - シェアサイクルのみ経路
  - 公共交通(電車・バス)のみ経路
  - 徒歩のみ経路
- が検索可能

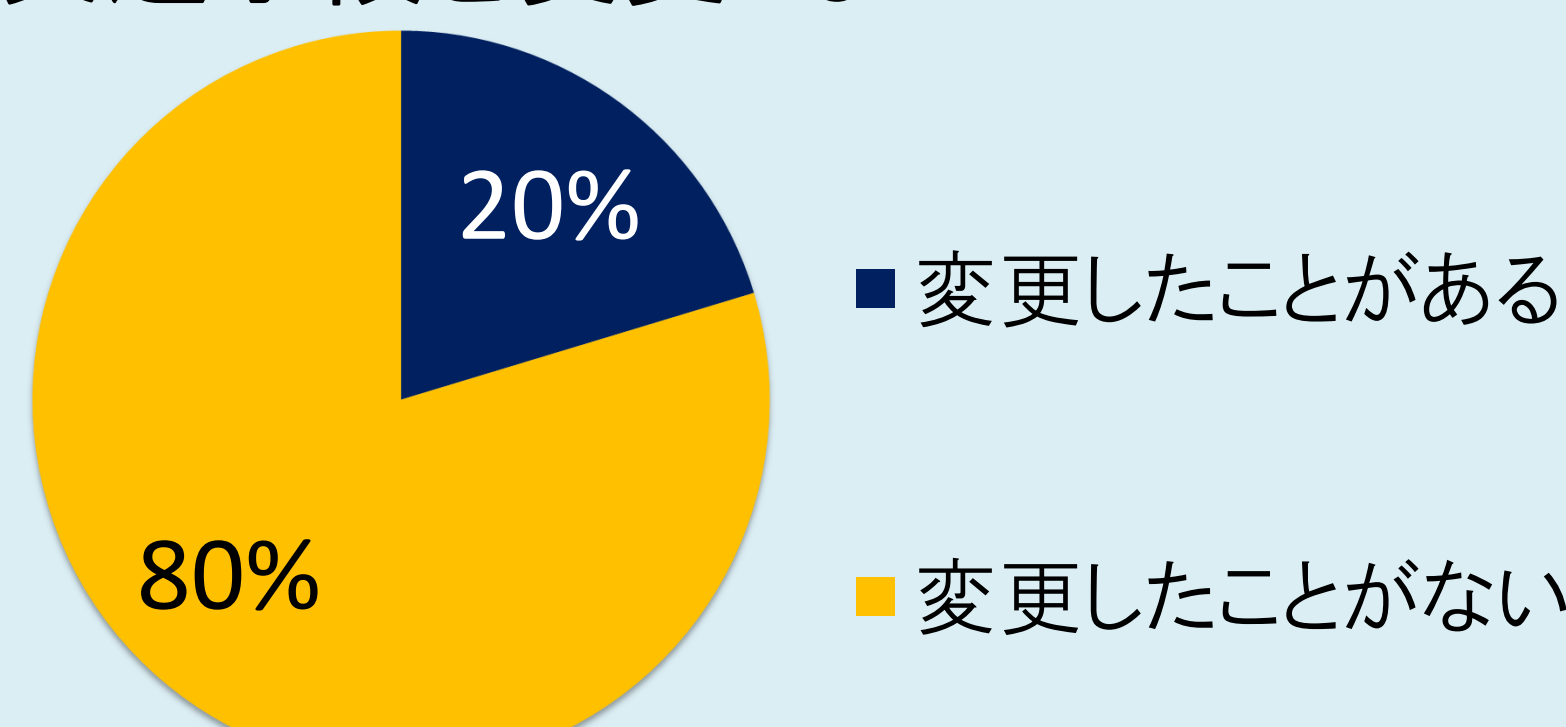
## III. 効果

- 2018年5月22日より実験β版のサービスを開始。
- 利用者の使い勝手や手間を考え、インストールの必要な専用アプリとはせず、WEBサイトとして提供。
- 「mixwayを利用した感想」は約半数が便利・使いやすいといった回答。理由としては操作が簡単であるといったサイトの使いやすさのほかに、「自転車(シェアサイクル)を利用したほうが早いということを知れた。」「リアルタイムでポートの満空情報が分かるから」といった回答が多かった。
- 検索結果に基づいて当初予定していたものとは異なる経路に変更したとの回答が2割であり、また、今後検索結果に基づいてほかの交通手段を選ぶことがあると思うとの回答が7割以上を占めた。
- 今までポロクルを使用したことのない人のうち、1割強がmixwayによってポロクルを利用したと回答している。

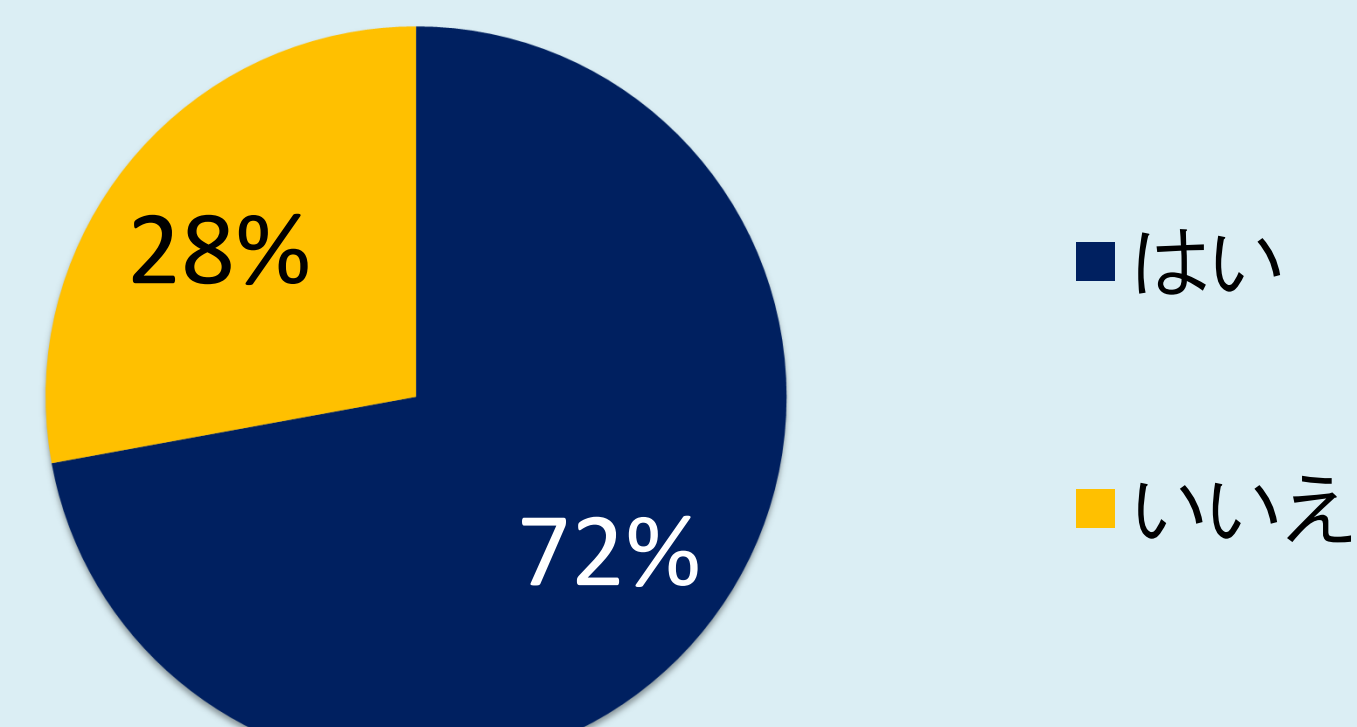
### 「mixway」を利用した感想



### 「mixway」の検索結果により交通手段を変更しましたか



### 今後、「mixway」の検索結果を参考にして交通手段を選びますか



## IV. 結論・今後の課題

- ユーザーの一定数は検索結果を参考に交通行動の変更を図っており、また検索結果を参考に交通手段選択を行っていることから、**シェアサイクルと公共交通を組み合わせた移動への行動変容を促している**ことが考えられる。
- これまで公共交通では弱かった面的な動きや端末となるラストワンマイルを埋める交通手段としてシェアサイクルを活用することで、モビリティの向上を図ることが可能となり、**公共交通の利用促進にも寄与する可能性**が期待できる。
- 複合モードの経路探索サービスは公共交通・自転車への行動変容に加え、**MaaS(Mobility as a Service)の基礎的技術**にもつながるなど今後の交通施策における重要なサービスと考えられる。
- 今後、大都市部や観光利用が多いなど利用傾向の異なる都市・地域を含めさらなる実験を行うとともに、複合的な情報提供のあり方や決済システムとの融合の可能性等を検討し、**本格実施に向けた要件検討を進めていくことが必要**と考える。